

— ラム・ブソング分校が開校しました! —

去る7月17日、四方を急斜面に囲まれたうなぎの寝床のような細長い丘の上で、4教室からなる校舎の完成を祝いました。竣工の儀式はビラーンの伝統に従い長老の手で、テープカットは当会の長老笠井さんをお願いしました。簡易水道、モデルトイレ設置を含めて約80万円の事業でした。FIDR(国際開発救援財団)の助成を受けて実施したものです。

4教室の校舎の屋根は波状の亜鉛鉄板。側壁の下部はコンクリートという構造です。骨組みの木材はコミュニティーからの提供。環境資源省(DENR)の許可を得て伐採したこの木を、チェーンソーを使って角材、板材に仕上げる労務費はかなりかかりました。

干ばつの最中、唯一の地下水湧出部分の水を利用して簡易水道をとの当初の計画は、湧出量が予想より少なく、出来上がった貯水タンクの水は濁っていて、洗濯にさえ使えそうにありません。その代わりに、校舎両端に作った雨水利用の天水タンクには雨季の今、十分な水が貯えられ、蛇口の周りには入れ替わり立ち代わり、容器を手にした子どもたちや近隣住民の姿がありました。

住民のビラーンダンスに加えて、10日遅れの七夕飾りが竣工式を盛り上げました。笠井さん持参の短冊には靴や家などの絵のほか、大きくなったら先生になりたいという夢もありました。

周辺の山にはすでに一本の樹木も残っていません。バナナの葉に盛られた昼食を食べ終え、三々五々家路につく子どもたちの姿が豆粒のようになって山一つ越えて行くのが見えました。雨の日、風の日に通学が思いやられます。HANDSとしては、コミュニティーセンターの基礎造りに参加できたことを感謝するとともに、これからも小学生への奨学金を通じて、ラムブソン分校を支えることが出来たらと考えております。(山崎)



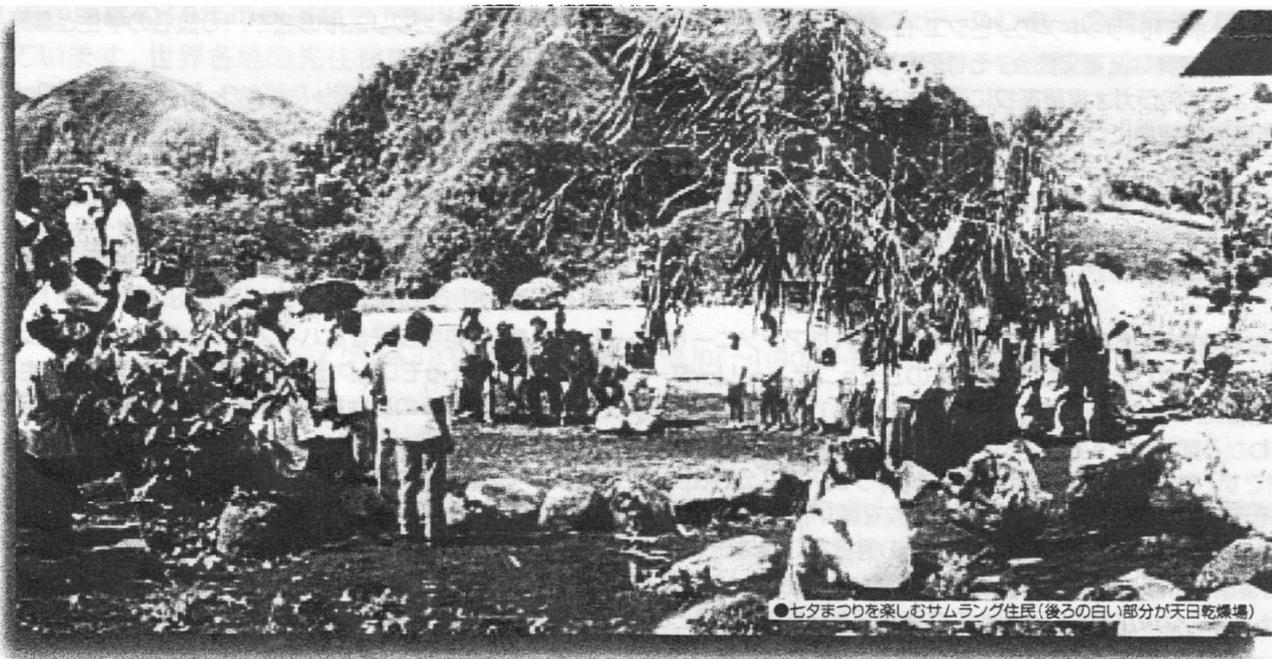
●ラムブソンの部族リーダー(後ろの屋根が新校舎)

— サムラングに天日乾燥場完成、4ヶ月後の収穫待ちです—

サムラング生産共同組合には予定の30名を越えて、34名が参加を申し出たとか。ただし、今回の干ばつで、現金収入皆無の組合員もいて、100ペソ(400円)の出資金(組合費)を払えたのは18名のみ。HANDSも20万円を支援。

両端にゴール用ポールが立てば、コートにもなるコンクリート広場が、学校の傍らにできていました。バスケットが盛んなフィリピン各地で目にする多目的天日乾燥場です。4ヶ月後には黄色いコーンで一面埋まるはず。これも共同組合事業の一つです。コーンなどの種と肥料の配布を受けた組合員は播種を終え、生育状況は順調とのこと。4ヶ月後の収穫時には、コーン・シエラー、乾燥場、4駆の小型トラックなどの共同利用で、種、肥料代などの資材費を組合に返済しても、最低限の生活費が手元に残るとの試算です。組合継続の鍵を握る資材費の返済率が注目されます。

今回の訪問では、笠井さん、篠原さん、倉田さんが、小豆島そうめんの試食会、七夕祭りを演出して下さい、授業の合間、子どもたちは異国の文化体験を楽しみました。(山崎)



●七夕まつりを楽しむサムラング住民(後ろの白い部分が天日乾燥場)